

# FRIENDS OF GREEN

No.74 1991年2月発行



## 第33回全国印刷緑友会名古屋大会

城戸会長挨拶・名古屋大会西川実行委員長挨拶

第33回名古屋大会報告・第7回京阪神合同例会報告

九州・山口青年印刷人の会スナップ／大牟田刷新倶楽部紹介／寄稿のお願い

 全国印刷緑友会

第33回全国印刷緑友会名古屋大会

# Nagoya A GREAT MEETING



全国印刷緑友会会長  
城戸 憲次

全国緑友の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

お元気で希望に満ちた新年を迎えられた事とお喜び申し上げます。

昨年は愛媛総会・名古屋大会と多くの参加をいただき、緑友会の仲間作りに協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。名古屋大会でのあの寸劇ノ3K、4K、という見方をされている我々業界、

いかに今後の課題が多いかを知らされた思いがいたしました。皆さんはいかがでしたでしょうか？

横内先生の「世界一の商品作りに命をかける」坂田先生の「ハガキ道に生きる」の講演、人は心でのみ通じ合う事が出来るのだという事を、しみじみと教えて下さったものと感じています。名古屋而立会の皆さんの心の暖まる企画による大会であったと思います。心よりお礼を申し上げます。

さて、平成3年を迎え、激動の年が始まったとしか言いようがありません。全世界の平和の祈りも

むなく湾岸戦争が始まってしまいました。長期化するのか短かくて終るのか？不透明の中で私達の業界はどう生きていけばよいのでしょうか？

人手不足の深刻化、物価の上昇、原油価格の高騰、労働時間の短縮、パルプによる環境問題と紙の価格問題等数多くの難題が山積みしているのが現状であります。

このような時、21世紀へのステップとして緑友会は何をすべきか？何を学ぶべきか？

問題点を皆で考え話し合いをすることにより、何らかの解決策が見出せるものと確信しています。

この2月の神戸セミナーも今後の私達企業の進むべき道を見出す手がかりになればと思っておりますので、多数御出席下さいませ。

最後に平成3年が皆様にとって、健康で活躍できる年でありませうお祈りします。神戸セミナーでお逢いできます事を楽しみにしております。

「緑友の仲間の熱き友情に乾杯」。  
第33回全国印刷緑友会名古屋大会  
の熱気と興奮の余韻に酔いながら、  
この一文をしたためております。

緑友の仲間在全国印刷緑友会名  
古屋大会という素晴らしい感動の  
場を与えていただきました。本当  
にありがとうございます。名古屋  
屋而立会会員一同、心よりお礼申  
し上げます。

顧みますと、名古屋大会をお引  
き受けしたのが、昨年の3月に名  
古屋に緑友セミナーが開かれたと  
きでした。それ以来、名古屋而立  
会では、「日本のへそ名古屋で逢い  
ましょう」をキャッチフレーズに  
紹介活動を展開すると同時に、企  
画を練り、内容の充実を図ってま  
いりました。

その集大成を2日間にわたって  
体験していただいたわけですが、  
さて、いかがだったでしょうか。  
「名古屋而立会の自己満足に終わっ  
たのではないか」と、ひそかに危  
惧する一方で、「いや、素晴らしい  
お土産をお持ち帰りいただいたの

だ」という自尊心も湧いておりま  
す。その判断に緑友の仲間には仰ぐ  
しかないのですが、不行き届きの  
点がございましたら、緑友の仲間  
の友情に免じてお許しいただきた  
いと存じます。

常任幹事、及びグループ長の皆  
様には、名古屋大会開催に際しま  
して、特にご支援、ご協力をいた  
だきました。ここにあらためてお  
礼申し上げます。

名古屋大会2日目、早朝よりの  
常任幹事会、ご苦労さまでした。  
前日の記念講演で、講師の横内祐  
一郎先生は、人間の耳に心地よい  
音は440ヘルツとおっしゃいました  
が、常任幹事会で皆様方の音を拝  
聴しましたところ、前夜の二次会  
のダメージのためか、およそ440ヘ  
ルツにはほど遠い声でした。220ヘ  
ルツくらいではなかったかと拝察  
いたします。この一事を含めまし  
て、皆様にはいろいろ楽しい思い  
で作っていただきました。あり  
がとうございました。

(平成二年九月)

## 第33回全国印刷緑友会名古屋大会を終えて



名古屋而立会  
全国印刷緑友会名古屋大会  
実行委員長 西川 誠也



●ホテルナゴヤキャッスルで開かれた  
第33回全国印刷緑友会名古屋大会



●式典で挨拶する城戸会長



第三十三回全国印刷緑友会名古屋大会は名古屋而立会（吉川正敏会長）の主管により、平成二年九月一、二の両日、総勢四〇〇名が参加して、ホテルナゴヤキャッスルで開かれた。

名古屋大会は、初日の一日が式典、記念講演、アベタイザー、懇親会、翌二日が常任幹事会、講話というスケジュールで開催されたが、従来みられなかった新機軸も打ち出され、九〇年代最初の大会に相応しい充実した内容の大会となった。これは主管の名古屋而立会が、この大会を「全国の若手印刷人が二十一世紀への助走路に立つのが名古屋大会」と位置づけ、取り組んだためである。

なお、名古屋で大会が開かれたのは、昭和四十一年の第九回大会以来、二十四年ぶりのこと。

式典は一日午後一時より、開かれた。司会は名古屋而立会の愛葉裕明氏がつとめた。

君が代斉唱、全国印刷緑友会綱領唱和、物故会員への黙禱のあと、西川誠也名古屋大会実行委員長が挨拶に立ち、次のように歓迎の辞を述べた。

「名古屋へようこそ。全国印刷緑友会の大会を名古屋而立会の主管で開くことができ、とても嬉し

く思っている。金沢大会からアツという間に一年が過ぎた。この間、業界で問題になったのは「人材不足」と「三K」。しかし、何をすべきなのか、どうすればいいのか、皆わかっているはず。あとは、するかしないかの問題だと思う。本日の記念講演会、明日の講話、皆さんに協力いただいたアンケート、そして懇親会での劇団「さまぐれ」の寸劇。いずれも、経営者、そして我われ二世の経営姿勢を問うものである。他も厳しいから、自分の所も仕様が「ない」ということで終わらないでほしい。この二日間、熱い語り合いをしていただきたい。そして楽しい思い出を作っていたきたい。

次に西川実行委員長より来賓紹介が行なわれた。

続いて全国印刷緑友会の城戸会長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「先頃、長崎の長崎青年印刷人会一八名が加入を表明され、常任委員会にて承認、新しい仲間になった。これで四二グループになったが、まだ未加入グループがたくさんあると思う。皆さんから情報をいただき、仲間がもっと増えることを願っている。仲間が多いということは情報が多いうことだと思ふ。人の話を聞いて己を省み、

そして人のために何かをするのが、我われのこれからやるべきことではないだろうか。己のことを考えるよりも、人のことを考えられる人間になるということは素晴らしいこと。そういう意味も含め、名古屋而立会さんが設定してくれたこの場を皆さんがフルに利用して、楽しい仲間、理解し合える仲間をいっぱい作っていただきたい。

次に来賓を代表して愛印工の大河内理事長が挨拶に立ち、まず「実は私は皆さんの仲間。名古屋而立会を昭和三十三年に我われの仲間と一諸に創設し、そして全国印刷緑友会の創設に参加」したことを明らかにしたうえで、「仲間の皆さんのご参集をおおぎ、こうして第三十三回全国印刷緑友会名古屋大会が盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます」と祝福した。

さらに大河内理事長は、名古屋而立会の主管により二十四年前の昭和四十一年に開催された第九回全国大会当時の思い出、世相、印刷業界の状況、そして、それ以降の社会の変化、印刷業界の歩みを振り返り、最後に印刷の未来を語った。

このあと名古屋大会に参加した全国四二グループの紹介が名古屋而立会の土屋英雄氏によって行なわれ、以上をもって式典は終了し

た。

式典終了後、休憩をはさんで記念講演会、続いてアペタイザーが開かれた。

記念講演会の講師は、フジゲン協会長の横内祐一郎氏。演題は「世界一の商品作りに命をかける」。横内氏は昭和二年生まれ。小学校代用教員、農業を経て、昭和三十三年にフジゲンの前身である富士弦楽器製造(株)を専務として創業。その後、代表取締役社長に就任、世界一のエレキギターメーカーに育てた人。横内氏は講演の中で、幼少の頃、創業のときの思い出、単身で渡米し、売り込みに成功するまでの苦勞を語り、聴講者に深い感銘を与えた。

アペタイザーは「食前酒」という意味で、いわば小懇親会。テーブルごとに会員が一〇〜一二人ずつ集まり、雑談、ディスカッションを通して親睦を深めようという企画。また、このアペタイザーでは、名古屋而立会が緑友の会員を対象に実施したアンケート調査結果が報告書として配布された。



●懇親会の席上勢ぞろいする名古屋而立会



●記念講演の後に開かれた「アペタイザー」



平成二年八月三日午後六時四〇分、ルミナス神戸の真白な三〇〇〇tの巨体は静かに錨を揚げ、黄昏の大阪湾ナイト・クルージングへと神戸港中突堤を後にしました。

今年で七回目を迎えるこの合同例会は、京都青年印刷人月曜会、大阪印刷人クラブ、そして今回ホストとなった神戸印刷若人会の3グループで成り立っています。お隣どうしの気安さから各会のそれぞれの行事等へも仲良く参加しあい交流の機会を増やし、お互いの研鑽にと毎年一回各地持回り続けています。京都では祇園祭りの夜に鴨川の床に集い、きれいだころや舞奴さんのもてなしに時の経つのも忘れて古都の情緒に浸り、大阪では万博の迎賓館で家族共々、蛸狩りや美味しい食事をゆったりと味わいくつろいで交流の場を持ち、又、我々神戸ではナイト・クルージングや夜の異人館で講師を招いてパーティをしたりと、各グループ各々に趣を異にしたお互いに交流の場づくりをやっております。

さて、今回のナイト・クルージングでは、全国印刷緑友会城戸憲次会長、刷友青山会逸見節夫妻をはじめ、総勢一五〇名の仲間が集まってくれました。遠路又忙し

いなかにもかかわらず、わざわざ参加していただき、この紙面をお借りして改めて心から感謝の意を表させていただきます。船内では家族ぐるみで立食パーティを催し、窓外の一、〇〇〇万ドルの夜景と楽しいビンゴゲームで盛り上がり、あつという間に三時間近くのクルージングが過ぎ去った感じです。夜の神戸は一段と輝きを増して、三々五々下船していくメンバーを包み込んでいきました。

最後になりましたが、我々神戸印刷若人会は、ほとんど三日と空けずに臨時例会・チーフ会議を開き、来年二月九日に開かれる緑友神戸セミナーへ向け、パワー全開で取り組んでいます。第一講は、従来になかった対象社員数三二、〇〇〇名という大スケールの意識調査をもとに、全員参加のデイスカッションの時間を多く取りいれた。考えよう心のマネージメント「人」。第二講は、趣をかえて、中東問題・ユダヤ問題でこの人の右にでる人はいないと言われる宇野正美先生をお願いしております。青年印刷人による新しい力の結集をめざし、一人でも多くの参加をお願いする次第です。神戸へ来てよかったと言われるようにを神戸印刷若人会の合言葉としてがんばっております。

## 第7回京阪神合同例会からの報告



●神戸印刷若人会  
安田充利幹事長の挨拶



●大阪青年印刷人クラブ  
小橋一雄会長の挨拶



●京都青年印刷人月曜会  
山下泰茂氏の挨拶

スナップ

# 第8回 九州・山口青年印刷人大会

1990年7月14日(土)~15日(日)  
山口県下関市 春帆楼  
主管/下関青年印刷人緑友会



● 関門海峡



● 赤間神宮にて

● 赤間神宮水野宮司の卓話





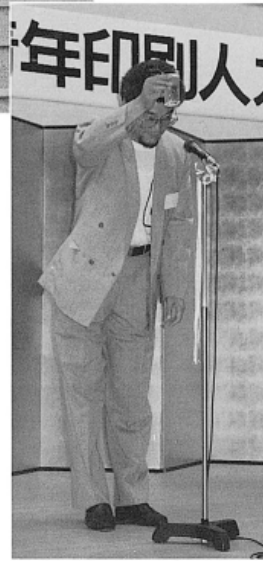


(第八回)九州・山口青年印刷人大会が、平成二年七月十四日(土)十五日(日)に山口県下関市の春帆楼にて盛大に開催された。

下関青年印刷人緑友会の主管で別紙九州山口地区やその他六グループの参加において、関門海峡の素晴らしい眺めや、下関を象徴する「ふく」の味わいの中でより以



●名物の豊富なふくに舌つづみを打つ懇親会



上の友情に花が咲いた。

式典は中平芳雄実行委員長の開式の辞、松田敦武下関青年印刷人緑友会会長の歓迎のことばに続き来賓祝辞など厳かに行なわれた。



●恒例のお手々つないで……



全国緑友の皆様にご挨拶を申し上げます。

先般の金沢大会において、加盟の件ご承認いただきまして、会員一同大変嬉しく思っております。

私共大牟田刷新倶楽部（旧大牟田印刷共同組合青年部）は発足から約五ヶ年の歳月を経て、ようやく、皆様の仲間入りが出来たのです。

発足当時から緑友会加盟へのお願いがございました。しかしまだ足元を固める事が先ではないのかと云う意見や親組合からのやんわりとした干渉等で加入を見合せた経過がございました。

青年部としての活動をする中で「親組合へ協力・協調」を唱えながら、年代の違いによるいらだちを感じ、「この日進月歩の印刷業界で自分達はいかに考え、行動すべきなのか」といった疑問が生じてきたのです。

そんな時に会員の一人の方が宮地氏率いる佐賀若楠会様の存在を耳にしてきました。葉をも掴む

思いで交流会を申し込みました。

「井の中の蛙たち」が初めて外界を覗くことが出来たのです。

他地域の方々と酒を交しながら語り合う。このような光景は今まで考えてもみませんでした。帰路についたバスの中でみんなの満足そうな顔を、今も思い出します。

この事により、一昨年開催された全国緑友佐賀大会へのオブザーバーとしての初参加の道が開かれました。九州随一とも思える大会会場。会場には立錐の余地がない程の大勢の参加者にただ目を見張るばかりでした。

初参加の私達が最も感銘を受けたものとして、大会主旨もさること等ら

去る者は追わず  
来る者は拒まず

ただ志しある者の集いとしての大会に心を打たれました。以後金沢大会で承認を得て、鹿児島、大分、山口、名古屋と心と心の鎖を求めて各々の大会に参加させていただいております。

私共十数名の会員ではありませんが、より広い輪をつくるために一人でも多くの参加者をつのり全国の大会に出席したいと思っております。全国緑友の皆様、これからの長族、よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

## グループ紹介シリーズ No.2

### 「大牟田刷新倶楽部 新規加盟ご挨拶」 会長 井上 一世



# INFORMATION



あなたも  
FRIENDS OF  
GREEN に  
寄稿しませんか！

緑友会だよりの誌面が前号より  
レイアウトを大幅に変えてスター  
トしました。

現状の緑友会だよりはセミナー  
・大会・総会の報告などがメイン  
となっておりますが、今後の方向  
性としては左記の記事を入れて、  
リニューアルなものにしたいと考  
えています。是非、皆様方の寄稿  
をお願い致します。

- 一、現状のものはすべて入れる。
- 二、参加グループ関連記事  
・グループ紹介↓働く人々紹介  
・近況報告  
・最新ニュース  
・活性化のための具体例  
・情報交換
- 三、参加グループ内の企業記事  
・企業紹介  
・革新的、拡印刷を実行してい  
る企業の情報  
・情報交換
- 四、紙上勉強会記事  
・税務、労務問題  
・人材確保、あの手この手  
・印刷業の問題と解決事例  
・最新印刷機械ニュース
- 五、常任幹事会レポート

(原稿送付先)

〒101 東京都千代田区神田佐久間町四一六

株式会社 昇文堂 齋田 精一



全国印刷緑友会

## FRIENDS OF GREEN

---

**FRIENDS OF GREEN** **No.74**

〒310 水戸市見川町 2558-21

TEL. 0292 (41) 2525

発行人 城戸 憲次(茨城印刷緑友会)

編集人 千代田印刷人新世会

---